

平成26年度 病害虫発生予察情報

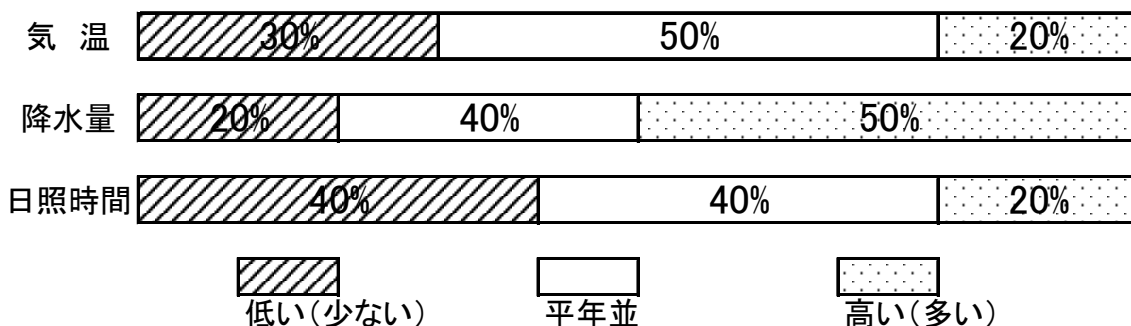
発生予報第6号（8月中旬～9月上旬）

平成26年8月8日
島 根 県

予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量
普通作物	イネ	穂いもち	やや少ない～平年並
		紋枯病	やや少ない～平年並
		白葉枯病	やや少ない～平年並
		ニカメイチュウ	やや少ない
		ツマグロヨコバイ	やや少ない
		セジロウンカ	やや少ない
		トビイロウンカ	やや多い
		コブノメイガ	やや少ない
		斑点米カメムシ類	やや多い
		果樹	ナシ
シンクイムシ類	平年並		
ハダニ類	平年並		
カキ	カメムシ類		やや多い
	うどんこ病		平年並
	カキミガ		平年並
	カメムシ類		やや多い

中国地方1か月予報(8月9日～9月8日・広島地方气象台8月7日発表)
 <向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



A. 普通作物

1) 水稻

(1) 穂いもち

発生地方 県内全域

発生量 やや少ない～平年並

① 7月下旬の巡回調査(70ほ場)における葉いもちの発生ほ場率は4.3%(平年18.4%)、発病株率は0.3%(平年9.4%)であったが、発病程度の高いほ場もあった。

② 向こう1か月の気象は、本病の発生を特に抑制する要因とはならない。

(2) 紋枯病

発生地方 県内全域

発生量 やや少ない

① 7月下旬の巡回調査(70ほ場)における発生ほ場率は8.6%(平年25.1%)、発病株率は1.5%(平年4.2%)で、全般の発生量は平年に比べて少ない。

② 向こう1か月の気象は、本病の発生(発病株での上位進展)を特に抑制する要因とはならない。

(3) 白葉枯病

発生地方 県内常習発生地帯

発生量 平年並

- ① 7月下旬の発生量は平年並みである。
 ② 向こう1か月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。
- (4) ニカメイチュウ (第2世代)
- 予報内容
 発生地方 県内全域
 発生量 やや少ない
- 予報の根拠
 ① 予察灯における誘殺数は平年に比べやや多い。
 ② 8月上旬の巡回調査では、発生圃場率は0% (平年9.6%)、被害株率は0% (平年0.4%) で発生量は平年に比べやや少ない。
 ③ 向こう一か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。
- (5) ツマグロヨコバイ
- 予報内容
 発生地方 県内全域
 発生量 やや少ない
- 予報の根拠
 ① 予察灯での誘殺数は平年並みである。
 ② 8月上旬の巡回調査では、捕獲数は7.6頭 (平年20.3頭/50株)、発生圃場率は52.6% (平年74.7%) で発生量は平年に比べ少ない。
 ③ 向こう一か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。
- (6) セジロウンカ
- 予報内容
 発生地方 県内全域
 発生量 やや少ない
- 予報の根拠
 ① 予察灯への初飛来は出雲市で7月13日に認められた。誘殺数は平年に比べてやや少ない。
 ② 8月上旬の巡回調査では、捕獲数は14.6頭 (平年70.6頭/50株)、発生圃場率は89.5% (平年77.9%) で発生量は平年に比べやや少ない。
 ③ 向こう一か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。
- (7) トビイロウンカ
- 予報内容
 発生地方 県内全域
 発生量 やや多い
- 予報の根拠
 ① 予察灯への初飛来は出雲市で7月15日に認められた。誘殺数は平年並みである。
 ② 8月上旬の巡回調査では、捕獲数は0.8頭 (平年0.1頭/50株)、発生圃場率は21.1% (平年4.3%) で発生量は平年に比べやや多い。
 ③ 向こう一か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。
- (8) コブノメイガ
- 予報内容
 発生地方 県内全域
 発生量 やや少ない
- 予報の根拠
 ① 予察灯、フェロモントラップでの誘殺数は平年並みである。
 ② 8月上旬の巡回調査では、捕獲数は0頭 (平年0.2頭/50株)、発生圃場率は0% (平年13.6%) で発生量は平年に比べやや少ない。
 ③ 向こう一か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。
- (9) 斑点米カメムシ類

※ 斑点米カメムシ類注意報(7月24日) 発表

- 予報内容
 発生地方 県内全域
 発生量 やや多い
- 予報の根拠
 ① 8月上旬に出穂しているほ場でのすくい取り調査では、カメムシ類合計で3.3頭/20回振り(平年3.1頭)、発生地点率63.9% (平年64.4%) で発生量はほぼ平年並みであるが、クモヘリカメムシの発生量が多く発生ほ場率も高い。またアカスジカスミカメの発生量もやや多い。
 ② 圃場周辺雑草地での斑点米カメムシ類の発生が平年に比べて多い。
 ③ 向こう一か月の気象は本種の発生を抑制する要因とはならない。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 ナシ（二十世紀）栽培地帯
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

① 8月1日の巡回調査では、発病葉率11.2%（平年13.0%）であり、発生量は平年並みである。

② 向こう一か月の気象は本病の発生にやや助長的である。

(2) シンクイムシ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生時期 平年並
発生量 平年並

予報の根拠

① フェロモントラップ（安来市、出雲市）でのナシヒメシンクイ第1世代の雄成虫の誘殺盛期、誘殺数はともに平年並みである。

② 向こう一か月の気象は本種の発生を助長する要因とはならない。

(3) ハダニ類

予報内容

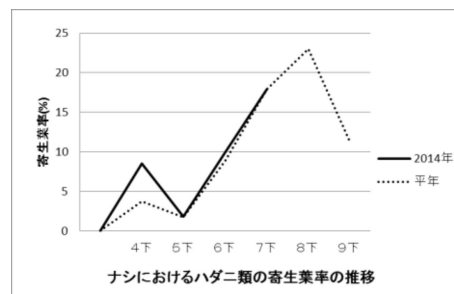
発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生量 平年並

予報の根拠

① 7月下旬の巡回調査では寄生葉率17.9%（平年17.9%）で平年並みである。

② 向こう一か月の気象は本虫の発生を特に抑制する要因とはならない。

③ クワオオハダニが見られる圃場も散見される。クワオオハダニに効果の低い薬剤があるので薬剤の種類には注意が必要である。



(4) カメムシ類

※ 果樹カメムシ類注意報（7月24日）発表

予報内容

発生地方 ナシ栽培地帯
発生量 やや多い

予報の根拠

① 予察灯（出雲市）での8月1半旬までのチャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシの3種果樹カメムシ類の誘殺数は2840頭（平年1390.6頭）で平年に比べやや多い。特にクサギカメムシは893頭（平年193頭）と多くなっている。

② チャバネアオカメムシの集合フェロモントラップによる8月1半旬までの誘殺数は3169頭（平年1259.5頭）と平年に比べてやや多い。

③ 8月の気象はカメムシ類の発生を特に助長する要因とはならない。

2) カキ

(1) うどんこ病

予報内容

発生地方 県内カキ栽培地帯
発生量 平年並

予報の根拠

① 8月6日の巡回調査では、発生量は平年並みである。

② 向こう一か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) カキミガ（第2世代）

予報内容

発生地方 カキ栽培地帯
発生量 平年並

予報の根拠

① 第1世代幼虫による芽および果実の被害は平年並みであった。

② 8月の気象は発生を特に助長する要因とはならない。

(3) カメムシ類

※ 果樹カメムシ類注意報(7月24日) 発表

予報内容

発生地方 カキ栽培地帯

発生量 やや多い

予報の根拠

①予察灯(出雲市)での8月1半旬までのチャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシの3種果樹カメムシ類の誘殺数は2840頭(平年1390.6頭)で平年に比べやや多い。特にクサギカメムシは893頭(平年193頭)と多くなっている。

②チャバネアオカメムシの集合フェロモントラップによる8月1半旬までの誘殺数は3169頭(平年1259.5頭)と平年に比べてやや多い。

③8月の気象はカメムシ類の発生を特に助長する要因とはならない。

島根県病害虫防除所

TEL 0853-22-6772

FAX 0853-24-3342

ホームページ

<http://www.pref.shimane.lg.jp/nogyogijutsu/byougaityuu/>